

まほく通信

第6号
2007年
10月22日
発行

那賀地方
患者家族会
まほく

会長 吉村由里子
【相談室】07336(77)5161
【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371
森田敏子方 0736(75)4413

設立1周年記念講演会開催

10月14日、打田生涯学習センターにおいて、まほく設立1周年を記念して医療福祉講演会を開催しました。時折、爽やかな秋の風が吹いてくる会場には35名の会員や一般の方々が参加しました。なかには新宮東牟婁地方や伊都地方の患者会からも参加者があり、まほくの1周年に花を添えてくれました。



がありました。患者会の運動によりこれを食い止めることができました。私たちのまほくはまだまだよちよち歩きですが、これからも広くまほくの会を知っていただき、患者家族が孤立することのないよう頑張り「ます」と、挨拶があり、岩出市代表の吉村太一さんの司会ではじめられました。

はじめに吉村由里子会長（写真上）から「大勢の参加をいただきありがとうございます。無我夢中の一年でしたが皆さま方のご協力をいただき無事1周年を迎えることができました。この一年は難病対策から潰瘍性大腸炎とパーキンソン病が外されようとする危機



湯は本来肩こりの薬で、毛髪剤リアップはもともと血圧の薬だったこと、薬についての心配事や分からないことは薬剤師などにしっかりと聞くこと・・・など、丁寧で分かりやすくお話しいただきました。



は薬の飲みやすい方法、便秘解消法などについて話し合われました。また、膠原病患者さんから「食べたい」という副作用とどう闘ったらいいのか、多発性硬化症

第一部の記念講演では和歌山社会福祉専門学校校長の中世古博幸氏に「薬を学び正しくつきあう」と題して講演いただきました。

（写真上）病院の薬と市販薬の違い、薬の大きさと薬の袋は誤嚥や飲み込みやすさを考えてる事、薬の種類が多いときは一包化にしてもらうこと、風邪薬の葛根

第二部の「日ごろの療養不安についての話し合い」では、中世古博幸氏と岩出保健所の小川政予保健師に助言者として加わっていただき（写真上）、参加者の相談にのっていただきました。重症筋無力症の患者さんからステロイド薬の副作用についての質問や、パーキンソン病の患者さんから

の患者さんからは眠剤やうつ病の薬などの副作用や依存性について真剣な話し合いがされました。さらにはパーキンソン病の患者さんが薬物治療をやめていくような治療を行っているが、この方法は大丈夫なのかなど、参加者からも積極的な意見が出され（写真下）、大変有意義な話し合いになりました。はじめ

てまほくの会に参加した女性は「今日ここに来るのもしんどくて悩みましたが、子どもが連れてきてくれたので参加することができました。いろんな話が聞けて本当に良かったです」と感想を述べてくれました。



がとうございました。これからも患者家族が安心して暮らせるような地域をめざして頑張りたいと思います。本日はありがとうございました。」との終わりの挨拶があり、盛会のうちに終了しました。

最後に紀の

川市代表の保田茂樹さん（写真上）から「まほく設立1周年を記念し、中世古博幸先生には薬について分かりやすく講演いただき、また岩出保健所の小川保健師さんには療養の不安などに助言をいただき、参加者ともども交流いただきました。あり

